

# はじめに

## P r e f a c e

京都大学基礎物理学研究所

阿部 恭久

Yasuhisa Abe

Research Institute for Fundamental  
Physics, Kyoto University

核データは、多くの場合原子炉設計などの応用を目的として収集、整理されてきた。N R D F は、このような趨勢の中で、まったく異なる発想から出発した。即ち、核データを生産する原子核実験研究者、原子核理論研究者等核物理学者による当該分野及び隣接分野を含む広い範囲の利用者を対象としたデータ・ファイルの作成を目指して始められた。具体的には、積分された断面積だけではなく、角度分布など広い範囲のデータを収集できるよう設計されており、又、実際に収集続けられている。新しい実験の計画段階における種々の検討や、新しい理論やモデルの検討のためのデータが迅速に電算機により利用出来ることは、研究者にとって大きな福音である。現在は、まだ、データ・ファイルとしては、不十分で、さらに一層多くのデータを収集することが必要であるが、同時に使いやすい検索システムの開発・改良が強く望まれる。

さらに使い易い体制の整備及び広報活動によって、生産者であり、利用者である研究者社会により定着させることが必要である。そうでなければ、一つの理想を掲げた趣味的作業の継続に惰するであろう。具体的には種々の条件があり全面的に解決することは困難であるが、部分的ではあっても具体的な活発な利用を促進させることを試みてはどうであろうか。国内生産データの完全な収集は、国際的教訓から必要であるが、例えばそれに加えて、現在国内（に限らないが）の研究者に関心及び需要のあるデータに狙いを付けて、生産利用する研究者と密接な連携と協力によって、ある特定範囲のデータについての収集率を集中的に高めることを試みてはどうであろうか。検索システムの改良も自然に改良されないであろうか。

国内的にも、国際的にも、大切な時期なので、改めて関係者の奮起を期待したい。